

令和6年度版『小学理科 5』年間指導計画・評価計画（案）

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準（ 具 体 的 目 標 ）			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 天気の変化 (p. 8～21) 4月（7時間）		雲や天気の変化に着目して、それらを継続的に調べる活動を通して、雲の量や動きと天気の変化の規則性についての理解や観測に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B(4)ア(イ)、イ		雲の量や動きと天気の変化の規則性を理解するとともに、器具などを正しく扱って観測を行ったり、目的に応じて情報を収集したりして、その結果を適切に記録する。	雲の量や動きと天気の変化の規則性について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	雲や天気の変化について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。	
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例			
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
3	1. 雲と天気 (p. 8～12)	空にどのような雲があるかを見て問題を見だし、午前と午後空の様子を調べる観察を通して、天気の変化と雲の量や動きに関する予想を確かめることにより、雲の量が増えたり減ったりすると天気が変わることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 空にどのような雲があるかを見る。（見つけよう） 午前と午後空の様子を調べる。（天気の流れ方、観察1、写真や動画のとり方） 何日間か空の様子を調べて、どのように雲の様子が変化すると、雨になることが多いかを考える。（学びを広げよう） 	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、雲の量や動きと天気の変化との関係を確認し、その結果を適切に記録する。 B: 方位磁針を正しく使い、雲の量や動き、形や色の時間変化を確認し、その結果を適切に記録している。 A: 方位磁針を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、雲の量や動き、形や色の時間変化を確認し、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 教科書11ページの記録例などを参照させ、雲の量や動きなどを記録できるようにする。	○天気の変化と雲の量や動きについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 天気の変化と雲の量や動きについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 天気の変化と雲の量や動きについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者にわかりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 空に見られる雲を思い出させ、雲がどのように変化すれば自分の予想を確かめられたといえるのかを考えられるようにする。	○天気の変化と雲の量や動きとの関係について、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 天気の変化と雲の量や動きとの関係について、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 天気の変化と雲の量や動きとの関係について、観察の結果をもとに、雲の量や動き、色、形などを多面的に考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 観察の結果をもとに、雲の量や動きを確認させることで、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。	○天気の変化と雲の量や動きとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 天気の変化と雲の量や動きとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 天気の変化と雲の量や動きとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの自分の経験を生かしてすすんで具体的に問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: 教科書8～9ページの写真を活用し、これまでの経験を想起させながら、雲の量や動きと天気との関係に興味をもてるようにすることで、主体的に学習に取り組めるようにする。
4	2. 天気の変化のきまり (p. 13～21)	広い範囲の天気の変化についての話し合いから問題を見だし、数日間の気象情報を集めて雲の動きと天気の変化との関係調べる活動を通して、日本付近の天気の変化に関する予想を確かめることにより、日本付近の天気はおおまかに西から東へ変わるというきまりがあることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 13ページの写真を見比べて広い範囲の天気の変化について気づいたことを話し合う。（見つけよう） 数日間の気象情報を集めて雲の動きと天気の変化との関係調べる。（気象情報の集め方、資料調べ1） 見つけた天気の変化の規則性をもとに天気の変化を予想する。（学びを広げよう） 	○目的に応じて選択した資料を活用しながら、日本付近の天気の変化のきまりを調べ、その結果を適切に記録する。 B: インターネットのウェブサイトを活用し、日本付近の天気の変化のきまりを調べ、その結果を適切に記録している。 A: インターネットのウェブサイトを情報の特性に応じて効果的に活用し、日本付近の天気の変化のきまりを調べ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 調べる情報を明確にして、インターネットのウェブサイトなどの資料選択の仕方や情報活用の仕方を指導する。	○日本付近の天気の変化のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 日本付近の天気の変化のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 日本付近の天気の変化のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者にわかりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 広い範囲の天気の変化は日本全体で見ることがあることに気づかせ、どのような情報を集めれば日本付近の天気の変化のきまりを調べられるのかを考えられるようにする。	○日本付近の天気の変化のきまりについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 日本付近の天気の変化のきまりについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 日本付近の天気の変化のきまりについて、観察の結果をもとに、天気や雲の連続的な時間変化を意識しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 調べた結果を時系列に並べさせ、時間の経過によって変化している部分をあげさせて、天気の変化のきまりについて考えられるようにする。	○日本付近の天気の変化に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 日本付近の天気の変化に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 日本付近の天気の変化に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで具体的に問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: 広い範囲で天気を見ると場所によって違うことを想起させ、どのような問題を解決しようとしているのかを振り返らせることにより、日本付近の天気の変化について主体的に学習に取り組めるようにする。

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2 植物の発芽や成長 (p. 22～47) 5～6月 (13時間)		植物が発芽し成長する過程に着目して、それらの条件を制御して調べる活動を通して、植物の発芽や成長の条件などについての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B(1)ア(ア)(イ)(ウ)、イ		植物の発芽や成長の条件などを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録する。	植物の発芽や成長の条件などについて、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	植物が発芽し成長する過程について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		発芽の条件を考える活動をもとに問題を見だし、種子に水を与えるときと与えないときの発芽を調べる実験を通して、水と発芽に関する予想を確かめることにより、インゲンマメの種子が発芽するためには水が必要であることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> どのような条件がそろって発芽するのかを考える。(見つけよう) 種子に水を与えるときと与えないときに発芽するかどうかを調べる。(実験1) 	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録する。 B:容器や脱脂綿を正しく使い、インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。 A:容器や脱脂綿を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:教科書24～25ページをもとに、水を与える種子と与えない種子を用意する理由をおさえ、比較対照実験の方法を知らせて、調べられるようにする。 ○インゲンマメの種子が発芽するためには水が必要であることを理解する。 B:インゲンマメの種子が発芽するためには水が必要であることを理解している。 A:インゲンマメの種子が発芽するためには水が必要であることを、水以外の条件の可能性にも言及しながら理解している。 【言】【記】 支援:実験の結果を振り返らせ、水の有無による違いから、インゲンマメの種子が発芽するのに必要な条件を理解できるようにする。	○インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:自分の予想を確かめるためには何がどのような結果になることを調べればよいかを問いかけ、自分の予想を確かめる方法と結果の予想を考えられるようにする。 ○インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかについて、実験の結果をもとに、学級全体の傾向を統計的に分析しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。	○インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水が必要かどうかに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:かいわれ大根は土にまかなくても発芽することなどを示し、これまでに植物を栽培した経験を想起させることにより、インゲンマメの種子の発芽に必要な条件について主体的に学習に取り組めるようにする。

7	1. 発芽に必要なもの (p. 22～35)	<p>空気や温度の条件を変えたときの発芽を調べる実験を通して、空気や温度と発芽に関する予想を確かめることにより、インゲンマメの種子が発芽するためには、水のほかに空気や適した温度が必要であることを捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・種子に空気を与えるときと与えないときで発芽するかどうかを調べる。(実験2-A) ・種子を部屋の中と冷蔵庫の中に置いて発芽するかどうかを調べる。(実験2-B) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、インゲンマメの種子が発芽するために空気や適当な温度が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録する。 B:エアポンプや冷蔵庫を正しく使い、インゲンマメの種子が発芽するために空気や適当な温度が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。 A:エアポンプや冷蔵庫を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、インゲンマメの種子が発芽するために空気や適当な温度が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:教科書29ページをもとに、調べたい2つの条件を表に整理する方法を知らせ、条件を制御して調べられるようにする。</p> <p>○インゲンマメの種子が発芽するためには水のほかに空気や適当な温度が必要であることを理解する。 B:インゲンマメの種子が発芽するためには水のほかに空気や適当な温度が必要であることを理解している。 A:インゲンマメの種子が発芽するためには水のほかに空気や適当な温度が必要であることを、土や肥料、日光が必要ではないこととともに的確に整理しながら理解している。 【言】【記】 支援:実験の結果を振り返らせ、空気や適当な温度の有無による違いから、インゲンマメの種子が発芽するのに必要な条件を理解できるようにする。</p>	<p>○インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:実験1の方法をもとに、発芽に空気や適当な温度が必要かどうかを調べる方法を考えさせる。その際に、調べたい条件が2つ以上あるときは条件を1つだけ変えて残りの条件は同じにすることをおさえ、条件を制御した実験を計画できるようにする。</p> <p>○インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものについて、実験の結果をもとに、学級全体の傾向を統計的に分析しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:空気と適当な温度のそれぞれについて、実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。また、自分の結果からいえることを考えたあと、各班の結果と比べていえることを考えるように指導する。</p>	<p>○インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:インゲンマメの種子が発芽するために水のほかに必要なものに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:水を与えすぎるとインゲンマメの種子が発芽しないことなどを示し、発芽には水以外にも必要なものがあることに気づかせ、インゲンマメの種子の発芽に必要な条件について主体的に学習に取り組めるようにする。</p>
2	2. 発芽と養分 (p. 36～39)	<p>インゲンマメの種子が発芽して成長していくと子葉がしぼむことから問題を見だし、発芽する前の種子と発芽したあとのしぼんだ子葉で中の養分を調べる実験を通して、子葉がしぼんでしまう理由に関する予想を確かめることにより、インゲンマメの子葉がしぼんでしまうのは種子の中のでんぷんが発芽に使われたからだと考えられることを捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インゲンマメの種子が発芽して成長していくときに変化しているところを見つける。(見つけよう) ・発芽する前の種子と発芽したあとのしぼんだ子葉で中の養分を調べる。(ヨウ素液の使い方、実験3) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、発芽前の種子と発芽後のしぼんだ子葉の中の養分を確かめ、その結果を適切に記録する。 B:カッターナイフやヨウ素液を正しく使い、発芽前の種子と発芽後のしぼんだ子葉の中の養分を確かめ、その結果を適切に記録している。 A:カッターナイフやヨウ素液を正しく使い、目的に沿った的確な操作により、発芽前の種子と発芽後のしぼんだ子葉の中の養分を確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:教科書37ページをもとに、ヨウ素液の使い方を再度確認し、でんぷんの有無を確かめられるようにする。</p> <p>○インゲンマメの子葉がしぼんでしまうのは種子の中のでんぷんが発芽に使われたからであることを理解する。 B:インゲンマメの子葉がしぼんでしまうのは種子の中のでんぷんが発芽に使われたからであることを理解している。 A:インゲンマメの子葉がしぼんでしまうのは種子の中のでんぷんが発芽に使われたからであることを、植物の成長の初期段階における種子の中の養分の役割という視点で理解している。 【言】【記】 支援:実験の結果を振り返らせ、発芽前の種子にだけでんぷんがあることから、子葉がしぼむ理由を理解できるようにする。</p>	<p>○植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:ヨウ素液を使うとでんぷんという養分があるかどうかを調べられることを伝え、ヨウ素液をどのように用いればよいかを考えられるようにする。</p> <p>○植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について、実験の結果をもとに、でんぷんが何に使われたかを具体的に詳しく考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:種子としぼんだ子葉にヨウ素液をつけた結果を比べ、でんぷんの有無から自分の予想が確かめられたといえるかを判断させるようにする。</p>	<p>○植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、植物が発芽したあとに子葉がしぼむ理由について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

4	3. 植物の成長に必要なもの (p. 40~47)	<p>植物がよく成長するために必要な物をもとに問題を見だし、日光や肥料の条件を変えたときの植物の成長を調べる実験を通して、日光や肥料と植物の成長に関する予想を確かめることにより、植物がよく成長するためには、発芽の条件のほかに、日光や肥料が必要であることを捉える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日光を当てるときと当てないときで植物の成長を調べる。(実験4-A) ・肥料を与えるときと与えないときで植物の成長を調べる。(実験4-B) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、植物がよく成長するためには日光や肥料が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録する。</p> <p>B:箱や液体肥料を正しく使い、植物がよく成長するためには日光や肥料が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>A:箱や液体肥料を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、植物がよく成長するためには日光や温度が必要かどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援:教科書41ページをもとに、調べたい2つの条件を表に整理させ、条件を制御して調べられるようにする。</p> <p>○植物がよく成長するためには日光や肥料が必要であることを理解する。</p> <p>B:植物がよく成長するためには日光や肥料が必要であることを理解している。</p> <p>A:植物がよく成長するためには日光や肥料が必要であることを、それらの必要性の度合いが異なることに言及しながら理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:実験の結果を振り返らせ、日光や肥料の有無による違いから、植物の成長に必要な条件を理解できるようにする。</p>	<p>○植物がよく成長するために必要な物について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。</p> <p>B:植物がよく成長するために必要な物について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。</p> <p>A:植物がよく成長するために必要な物に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:これまでの栽培経験を想起させて、植物を育てるときに注意したことなどをもとに、植物が成長に必要な条件を考えられるようにする。</p> <p>○植物がよく成長するために必要な物について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。</p> <p>B:植物がよく成長するために必要な物について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。</p> <p>A:植物がよく成長するために必要な物について、実験の結果をもとに、学級全体の傾向を統計的に分析しながら考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:日光と肥料のそれぞれについて、実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想を確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○植物がよく成長するのに必要な物に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。</p> <p>B:植物がよく成長するために必要な物に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>A:植物がよく成長するために必要な物に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>【行】【言】 支援:これまでに植物を栽培した経験を想起させ、発芽の条件のほかに植物の成長に必要な物を具体的に予想させることにより、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>
---	---------------------------	---	--	---	---	---

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3 メダカのたんじょう (p. 48～59) 6 月 (5時間)		メダカの誕生に着目して、それらを継続的に調べる活動を通して、受精したメダカの卵の育ちについての理解や観察に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B (2)ア(ア)、イ		受精したメダカの卵の育ちを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を適切に記録する。	受精したメダカの卵の育ちについて、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	メダカの誕生について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5	○ メダカのたんじょう (p. 48～59)	メダカの雌と雄を飼って卵を産ませる活動をもとに問題を見だし、受精したメダカの卵を調べる観察を通して、受精したメダカの卵の育ちに関する予想を確かめることにより、受精したメダカの卵は11日間くらいかけて中の様子が変化してだんだんとメダカらしくなり、その卵からメダカの子がかえることを捉える。	・メダカの雌と雄を飼って卵を産ませる。(見つけよう、メダカの飼い方) ・受精したメダカの卵がどのように育つかを調べる。(観察1、かいぼうけんび鏡の使い方、そうがん実体けんび鏡の使い方) ・いろいろな魚について卵の産む場所や卵の育ちを調べる。(学びを広げよう)	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、受精したメダカの卵の育ちを確かめ、その結果を適切に記録する。 B: 双眼実体顕微鏡または解剖顕微鏡を正しく使い、受精したメダカの卵の育ちを確かめ、その結果を適切に記録している。 A: 双眼実体顕微鏡または解剖顕微鏡を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、受精したメダカの卵の育ちを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 教科書193ページをもとに、双眼実体顕微鏡や解剖顕微鏡の操作を習得できるようにするとともに、教科書54～55ページの記録例を参考に、観察の結果を記録できるようにする。 ○受精したメダカの卵は、日がたつにつれて中の様子が変化し、その卵から子がかえることを理解する。 B: 受精したメダカの卵は、日がたつにつれて中の様子が変化し、その卵から子がかえることを理解している。 A: 受精したメダカの卵は日がたつにつれて中の様子が変化して、その卵から子がかえることを、卵の中で体ができていく順序にも言及しながら理解している。 【言】【記】 支援: 観察の結果を時系列に沿って並べさせ、受精したメダカの卵の変化を理解できるようにする。	○受精したメダカの卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 受精したメダカの卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 受精したメダカの卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 自分の予想を確かめるには、何をどのように観察していけばよいかを考えさせるようにする。 ○受精したメダカの卵の育ちについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 受精したメダカの卵の育ちについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 受精したメダカの卵の育ちについて、観察の結果をもとに、卵の中で体ができていく過程を詳しく考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 観察記録を振り返らせ、時系列に沿って違いを確認していき、卵の中の変化を考えられるようにする。	○受精したメダカの卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 受精したメダカの卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 受精したメダカの卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: メダカの卵から子がかえるまでにどのように変化するかを具体的に予想させ、受精したメダカの卵の育ちについて主体的に学習に取り組めるようにする。 ○学んだことを、いろいろな魚にあてはめて調べようとする。 B: いろいろな魚の卵を産む場所や卵の育ちについて調べようとしている。 A: いろいろな魚の卵を産む場所や卵の育ちについて調べ、魚の種類による多様性を説明しようとしている。 【行】【言】 支援: これまでの学習を思い出させ、メダカは日がたつにつれて中の様子が変化したことなどを確認し、他の魚との違いや共通性について調べられるようにする。

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 ふりこ (p. 60～73) 6～7月(9時間)		振り子の1往復する時間に着目して、それらを条件を制御して調べる活動を通して、振り子の1往復する時間が変わる要因についての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒A(2)ア(ア)、イ		振り子の1往復する時間が変わる要因を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録する。	振り子の1往復する時間が変わる要因について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	振り子の1往復する時間について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9	○ ふりこ (p. 60～73)	振り子を作って揺らす活動をもとに問題を見だし、振り子の長さやおもりの重さ、振り子の振れ幅の条件を変えたときの1往復する時間を調べる活動を通して、振り子の1往復する時間が変わる要因に関する予想を確かめることにより、振り子の1往復する時間は振り子の長さによって変わり、おもりの重さや振り子の振れ幅によっては変わらないことを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 糸とおもりで音楽のリズムに合わせて揺れる振り子を作って揺らす。(見つけよう) 振り子の長さが30cmと60cmのときで振り子の1往復する時間を調べる。(実験1-A) おもりの重さがおもり1個と2個のときで振り子の1往復する時間を調べる。(実験1-B) 振り子の振れ幅が10°と20°のときで振り子の1往復する時間を調べる。(実験1-C) 身のまわりの物に使われている振り子の性質を考える。(学びを広げよう) 1秒振り子を作る。(チャレンジ) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録する。 B:振り子実験装置やストップウォッチを正しく使い、振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。 A:振り子実験装置やストップウォッチを正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、振り子の1往復する時間のきまりを確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援:教科書62ページをもとに、振り子の1往復する時間のはかり方を確認し、調べたい3つの条件を表に整理させ、条件を制御して調べられるようにする。</p> <p>○振り子の1往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によっては変わらず、振り子の長さによって変わることを理解する。 B:振り子の1往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によっては変わらず、振り子の長さによって変わることを理解している。 A:振り子の1往復する時間は、おもりの重さや振り子の振れ幅によっては変わらず、振り子の長さによって変わることを、測定誤差の考え方に言及しながら理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:何回か行った実験の結果を見直し、3つの条件について調べた結果を比べることで、振り子の1往復する時間が何によって変わるかを理解できるようにする。</p>	<p>○振り子の1往復する時間のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:振り子の1往復する時間のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:振り子の1往復する時間のきまりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:自分の予想を確かめるために、何と何を比べて、どのような結果になればよいかを問いかけ、実験方法と結果の見通しを考えられるようにする。</p> <p>○振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:振り子の1往復する時間のきまりについて、実験の結果をもとに、測定誤差についても考慮しながら考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:見通しと違う結果になったときは、実験が計画どおりにできたかどうか、計画が予想を確かめる方法になっているかを振り返り、もう一度調べて考えられるようにする。</p>	<p>○振り子の1往復する時間のきまりに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:振り子の1往復する時間に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、振り子の1往復する時間について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○学んだことをもとに、身のまわりの事例について考えようしたり、1秒振り子を作ろうとしたりする。 B:振り子を利用した身のまわりの物について、振り子の性質がどのように利用されているかを考えようしたり、振り子実験装置を改良して1秒振り子を作ろうとしたりしている。 A:振り子を利用した身のまわりの物について、振り子の性質がどのように利用されているかを考え、実験の結果をもとに1往復する時間を具体的に求めようしたり、振り子実験装置を改良して1秒振り子を作ろうとしたりしている。 【行】【言】 支援:これまでの学習を振り返らせ、振り子の1往復する時間のきまりを確認することで、身のまわりの物にあてはめて考えたり、1秒振り子を作ったりできるようにする。</p>

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5 花から実へ (p. 76~91) 9 月 (7 時間)		アサガオやヘチマの花のつくりや、めしべのもとが実になることに着目して、花のつくりを比較して調べる活動や実のでき方を継続的に調べる活動を通して、花のつくりや実のでき方についての理解や観察・実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B (1)ア(エ)、イ		花のつくりや実のでき方を理解するとともに、器具などを正しく扱って観察を行い、その結果を適切に記録する。	花のつくりや実のでき方について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	アサガオやヘチマの花のつくりや実のでき方について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1. 花のつくり (p. 76~81)	アサガオやヘチマの花を見る活動をもとに問題を見だし、アサガオやヘチマの花のつくりを調べる観察を通して、花のつくりに関する予想を確かめることにより、アサガオの花のつくりやヘチマの雌花と雄花のつくりを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> アサガオやヘチマの花を見比べる。(見つけよう) アサガオの花やヘチマの花のつくりを調べる。(観察1) 顕微鏡を使ってアサガオやヘチマの花粉を観察する。(チャレンジ、けんぴ鏡の使い方) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、アサガオやヘチマの花のつくりを確かめ、その結果を適切に記録する。 B: 虫眼鏡を正しく使い、アサガオやヘチマの花のつくりを確かめ、その結果を適切に記録している。 A: 虫眼鏡を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、アサガオやヘチマの花のつくりを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 教科書77ページや80ページを確認させ、めしべ、おしべ、花びら、がくといった花のつくりを確認させ、観察の視点を明確にして調べられるようにする。</p> <p>○花は、めしべ、おしべ、花びら、がくからできていて、めしべとおしべが1つの花にあるものと、別々の花にあるものがあることを理解する。 B: 花は、めしべ、おしべ、花びら、がくからできていて、めしべとおしべが1つの花にあるものと、別々の花にあるものがあることを理解している。 A: 花は、めしべ、おしべ、花びら、がくからできていて、めしべとおしべが1つの花にあるものと、別々の花にあるものがあることを、それらの形状や数の違いについても言及しながら理解している。 【言】【記】 支援: 観察記録や教科書80ページを確認させ、アサガオとヘチマの花のつくりについてそれぞれ理解できるようにする。</p>	<p>○花のつくりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 花のつくりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 花のつくりについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 自分の予想を確かめるために、何を基準にしてどのように調べればよいかを考えさせるようにする。</p> <p>○花のつくりについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 花のつくりについて、観察の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 花のつくりについて、観察の結果をもとに、めしべ、おしべ、花びら、がくの形状や数にも着目しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 観察記録を振り返らせ、アサガオとヘチマの花のどこにおしべやめしべなどがあるかを1つずつ確かめ、花のつくりについて考えられるようにする。</p>	<p>○花のつくりに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 花のつくりに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 花のつくりに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: アサガオとヘチマの花を見比べることにより、それらの違いに気づかせ、花のつくりについて主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

3	2. 実のでき方 (p. 82~91)	<p>めしべのものが実になつたりならなかつたりする理由を考える活動をもとに問題を見だし、めしべの先に花粉をつける花とつけない花で実のでき方を調べる実験を通して、めしべのものが実になるために必要なことに関する予想を確かめることにより、実になるためにはめしべの先に花粉がつくことが必要であることを捉える。</p>	<p>・めしべのものが実になつたりならなかつたりするわけを話し合う。(見つけよう) ・めしべの先に花粉をつける花とつけない花で実のでき方を調べる。(実験1) ・いろいろな植物について受粉の仕方を調べると。(学びを広げよう)</p>	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、めしべのものが実になるために必要なことを確かめ、その結果を適切に記録する。 B: 袋や名札などを正しく使い、めしべのものが実になるために必要なことを確かめ、その結果を適切に記録している。 A: 袋や名札などを正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、めしべのものが実になるために必要なことを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: あらかじめ両方に袋をかぶせる理由や一方にだけ花粉をつける理由を確認し、条件を制御して調べられるようにする。 ○めしべのものが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要であることや、受粉と昆虫や風との関係を理解する。 B: めしべのものが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要であることや、受粉と昆虫や風との関係を理解している。 A: めしべのものが実になるためには、めしべの先に花粉がつくことが必要であることや、受粉と昆虫や風との関係を、めしべとおしべのそれぞれの役割に言及しながら理解している。 【言】【記】 支援: 実験の結果を振り返らせたり、教科書86ページを確認させたりしながら、めしべの先に花粉がつくと実ができることを理解できるようにする。</p>	<p>○めしべのものが実になるために必要なことについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: めしべのものが実になるために必要なことについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: めしべのものが実になるために必要なことについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいうに工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 「2 植物の発芽や成長」などの学習を想起させ、これまでに学んだ方法の中で自分の予想を確かめるのに使えそうなものがあるかどうかを考えさせる。 ○めしべのものが実になるために必要なことについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: めしべのものが実になるために必要なことについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: めしべのものが実になるために必要なことについて、実験の結果をもとに、めしべとおしべのそれぞれの役割を意識しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○めしべのものが実になるために必要なことに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: めしべのものが実になるために必要なことに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: めしべのものが実になるために必要なことに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、めしべのものが実になる要因について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○学んだことをもとに、いろいろな植物の受粉について調べようとする。 B: いろいろな植物の受粉について、花粉の運ばれ方の視点で調べようとしている。 A: いろいろな植物の受粉について、花粉の運ばれ方の視点で調べ、生命をつなげる共通性と種類による多様性の両面を考えようとしている。 【行】【言】 支援: これまでの学習を思い出させ、いろいろな植物がさまざまな方法で花粉を運んでもらっていることに気づかせることにより、植物の受粉について考えられるようにする。</p>
---	------------------------	--	---	--	--	--

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 台風接近 (p. 92～101) 9～10月 (4時間)		台風が近づいてきたときの進み方や天気に着目して、それらを継続的に調べる活動を通して、台風の進路や台風が近づいたときの天気についての理解や資料調べに関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B(4)ア(イ)、イ		台風の進路や台風が近づいたときの天気を理解するとともに、目的に応じて情報を収集し、その結果を適切に記録する。	台風の進路や台風が近づいたときの天気について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	台風が近づいてきたときの進み方や天気について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	○ 台風接近 (p. 92～99) ○ 台風と災害 (p. 100～101)	台風が備えてどのような情報が必要かを考えることから問題を見だし、気象情報を集めて台風の動きや台風が近づいた地域の天気を調べる活動を通して、台風の動きや天気に関する予想を確かめることにより、台風は日本付近では北や東の方へ動くことが多く、台風が近づくと大雨が降ったり強風が吹いたりすることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・台風が近づく前にどのような情報が必要かを考える。(見つけよう) ・数日間の気象情報を集めて台風の動きや台風が近づいた地域の天気を調べる。(資料調べ1) 	<p>○目的に応じて選択した資料を活用しながら、台風の動きや台風が近づいたときの天気を調べ、その結果を適切に記録する。</p> <p>B: インターネットのウェブサイトを活用し、台風の動きや台風が近づいたときの天気を調べ、その結果を適切に記録している。</p> <p>A: インターネットのウェブサイトを情報の特性に応じて効果的に活用し、台風の動きや台風が近づいたときの天気を調べ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援: 調べる情報を明確にして、インターネットのウェブサイトなどの資料選択の仕方や情報活用の仕方を指導する。</p> <p>○台風は日本付近では北や東の方へ動き、台風が近づくと大雨が降ったり強風が吹いたりすることを理解する。</p> <p>B: 台風は日本付近では北や東の方へ動き、台風が近づくと大雨が降ったり強風が吹いたりすることを理解している。</p> <p>A: 台風は日本付近では北や東の方へ動き、台風が近づくと大雨が降ったり強風が吹いたりすることを、台風による災害と混同せずにはっきり区別して理解している。</p> <p>【言】【記】 支援: 日本付近の数日間の雲の動きと天気の変化を振り返らせ、台風の動きや台風が近づいたときの天気の特徴について、1つずつ理解できるようにする。</p>	<p>○台風の動きや台風が近づいたときの天気について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。</p> <p>B: 台風の動きや台風が近づいたときの天気について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。</p> <p>A: 台風の動きや台風が近づいたときの天気について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者にわかりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援: 「1 天気の変化」の学習を振り返り、雲画像や降水量の情報をもとに集めればよいかを考えさせる。</p> <p>○台風の動きや台風が近づいたときの天気について、資料調べの結果をもとに考察し、その考えを表現する。</p> <p>B: 台風の動きや台風が近づいたときの天気について、資料調べの結果をもとに考察し、その考えを表現している。</p> <p>A: 台風の動きや台風が近づいたときの天気について、資料調べの結果をもとに、台風による災害とは区別して考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援: 調べた結果を時系列に並べさせ、台風の動きや台風が近づいたときの天気の変化について考えられるようにする。</p>	<p>○台風の動きや台風が近づいたときの天気に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。</p> <p>B: 台風の動きや台風が近づいたときの天気に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>A: 台風の動きや台風が近づいたときの天気に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>【行】【言】 支援: 教科書92～93ページの写真や映像資料などを活用し、台風に関するこれまでの体験を想起させることにより、台風の動きや台風が近づいたときの天気について主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○学んだことを、自分の生活にあてはめて考えようとする。</p> <p>B: 台風による災害とその対策について、自分の生活にあてはめて考えようとしている。</p> <p>A: 台風による災害とその対策について、自分の生活にあてはめて考え、これまでに学んだことを具体的に生かそうとしている。</p> <p>【言】【記】 支援: 教科書の資料などのさまざまな事例を示し、台風による災害とその対策をもとに、自分の生活にあてはめられるようにする。</p>

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6 流れる水と土地 (p. 102~121) 10~11月 (11時間)		土地を流れる川に着目して、それらと比較したり関係づけたりして調べる活動を通して、川の上流と下流の違いや流れる水のはたらきについての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B(3)ア(ア)(イ)(ウ)、イ		川の上流と下流の違いや流れる水のはたらきを理解するとともに、器具などを正しく扱って観察や実験を行ったり、目的に応じて情報を収集したりして、その結果を適切に記録する。	川の上流と下流の違いや流れる水のはたらきについて、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	土地を流れる川について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3	1. 川の上流と下流 (p. 102~110)	川の上流と下流の様子を比べる活動をもとに問題を見だし、川の上流や下流の様子を調べる観察を通して、川の上流と下流の違いに関する予想を確かめることにより、川の上流と下流では川幅や見られる石に違いがあることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 川の上流と下流の様子を写真などで比べる。(見つけよう) インターネットに接続しているコンピュータを使って川の上流や下流の様子を調べる。(観察1) 	<p>○目的に応じて選択した資料を活用しながら、川の上流や下流の様子を調べ、その結果を適切に記録する。 B:インターネットのウェブサイトを活用し、川の上流や下流の様子を調べ、その結果を適切に記録している。 A:インターネットのウェブサイトを情報の特性に応じて効果的に活用し、川の上流や下流の様子を調べ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:調べる情報を明確にして、インターネットのウェブサイトなどの資料選択の仕方や情報活用の仕方を指導する。</p> <p>○川の上流と下流では、川幅や見られる石の大きさに違いがあることを理解する。 B:川の上流と下流では、川幅や見られる石の大きさに違いがあることを理解している。 A:川の上流と下流では、川幅や見られる石の大きさに違いがあることを、複数の川の結果をもとに全般的な傾向として理解している。 【言】【記】 支援:調べた結果を振り返らせたり、教科書107~109ページや写真資料などを参照させたりして、川の上流と下流の違いを捉えさせるようにする。</p>	<p>○川の上流と下流の様子について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:川の上流と下流の様子について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:川の上流と下流の様子について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その方法を他者にわかりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:広い範囲の情報が必要なことに気づかせ、どのように情報を集めれば川の上流と下流の違いを調べられるかを考えられるようにする。</p> <p>○川の上流と下流の様子について、調べた結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:川の上流と下流の様子について、調べた結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:川の上流と下流の様子について、調べた結果をもとに、複数の川の結果を総合的に考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:調べた資料を上流と下流に分けさせ、川幅や見られる石の大きさの視点で比較して考えられるようにする。</p>	<p>○川の上流と下流の様子の違いに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:川の上流と下流の様子の違いに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 A:川の上流と下流の様子の違いに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとする。 【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、川の上流と下流の様子について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>
4	2. 流れる水のはたらき (p. 111~115)	雨水が流れる地面の様子と川の様子を見比べる活動をもとに問題を見だし、土に水を流して流れる水のはたらきを調べる実験を通して、流れる水が土地を変化させるはたらきに関する予想を確かめることにより、流れる水には侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 雨水が流れる校庭や公園の地面の様子と川の様子を見比べる。(見つけよう) プランターのトレイに入れた土に水を流して流れる水のはたらきを調べる。(実験1) 実際の川では流れる水のはたらきによってどのような土地の様子が見られるかを調べる。(学びを広げよう) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、流れる水のはたらきを確かめ、その結果を適切に記録する。 B:プランターのトレイや土を正しく使い、流れる水のはたらきを確かめ、その結果を適切に記録している。 A:プランターのトレイや土を正しく使い、流れる水のはたらきを手際よく効率的に確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:広い場所で長い時間のかかる変化を調べる場合には規模を小さくしたモデル実験をすることを知らせ、何を調べるのかを確認してから実験する。</p> <p>○流れる水には、侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを理解する。 B:流れる水には、侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを理解している。 A:流れる水には、侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを、実際の川の様子と関連づけながら理解している。 【言】【記】 支援:実験の結果や写真資料などをもとに、流れる水には侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを理解できるようにする。</p>	<p>○流れる水のはたらきについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:流れる水のはたらきについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:流れる水のはたらきについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:自分の予想どおりならば、結果の見通しがどのようになるかを問いかけ、予想を具体化させるようにする。</p> <p>○流れる水のはたらきについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:流れる水のはたらきについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:流れる水のはたらきについて、実験の結果をもとに、実際の川で見られる土地の特徴と対比しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:水を流したときに土がどこからどこへ移動しているのかに着目させ、侵食、運搬、堆積のはたらきを1つずつ考えられるようにする。</p>	<p>○流れる水のはたらきに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:流れる水のはたらきに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:流れる水のはたらきに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、流れる水のはたらきについて他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○学んだことを、実際の川にあてはめて調べようとする。 B:実際の川で見られる土地を、流れる水のはたらきの視点で調べようとしている。 A:実際の川で見られる土地を、川の上流や下流の違いにも着目しながら、流れる水のはたらきの視点で調べようとしている。 【行】【言】 支援:これまでの学習を思い出させ、流れる水には侵食、運搬、堆積のはたらきがあることを確認し、実際の川で見られる土地がどのようにしてできたかを考えられるようにする。</p>

4	3. 流れる水の量が 増えるとき (p. 116～121)	川のふだんの様子と増水したときの様子を見比べる活動をもとに問題を見だし、土に流す水の量を変えて流れる水のはたらきの違いを調べる実験を通して、水量と流れる水のはたらきに関する予想を確かめることにより、水量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることを捉える。	・川のふだんの様子と増水したときの様子を写真などで見比べる。(見つけよう) ・土に流す水の量を変えて流れる水のはたらきの違いを調べる。(実験2) ・自分たちの住む地域で大雨などで川を流れる水のはたらきが大きくなって土地の様子が大きく変わったことがあるかを調べてみる。(学びを広げよう)	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、水量と流れる水のはたらきとの関係を確かめ、その結果を適切に記録する。 B: 実験1で使った装置を正しく使い、水量と流れる水のはたらきとの関係を確かめ、その結果を適切に記録している。 A: 実験1で使った装置を正しく使い、水量と流れる水のはたらきとの関係を手際よく効率的に確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 実験1を振り返らせ、実験1の操作と同じところや違うところを明らかにして、実験2について調べられるようにする。 ○水量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることを理解する。 B: 水量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることを理解している。 A: 水量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることを、実際の川の様子と関連づけながら理解している。 【言】【記】 支援: 実験の結果を振り返らせ、水量が増えると流れる水のはたらきが大きくなることを理解できるようにする。	○水量と流れる水のはたらきとの関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 水量と流れる水のはたらきとの関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 水量と流れる水のはたらきとの関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 流れる水のはたらきを調べた経験を振り返らせ、水量と流水のはたらきとの関係について考えられるようにする。 ○水量と流れる水のはたらきとの関係について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 水量と流れる水のはたらきとの関係について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 水量と流れる水のはたらきとの関係について、実験の結果をもとに、実際の川で見られる事象と対比しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 実験2の結果を振り返らせ、実験1の結果と比べて、水量が多くなったときに流れる水のはたらきがどう変わるのかを考えられるようにする。	○水量と流れる水のはたらきとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 水量と流れる水のはたらきとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 水量と流れる水のはたらきとの関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、水量と流れる水のはたらきについて他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。 ○学んだことを、身のまわりの事例にあてはめて調べようとする。 B: 身のまわりの土地の様子が変わったところを、流水のはたらきの視点で調べようとしている。 A: 身のまわりの土地の様子が変わったところを、川の増水の要因にも言及しながら、流水のはたらきの視点で調べようとしている。 【行】【言】 支援: 過去の大雨などで変化した土地について、侵食、運搬、堆積のはたらきを振り返りながら、川の増水によってどのはたらきが大きくなったかを考えられるようにする。
---	-------------------------------------	--	--	--	--	---

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
○ 川と災害 (p. 122～129) 11月 (1時間)		川による災害に着目して、川の増水などが人々の生活に与える影響や災害から身を守る対策についての理解を身につける。 ⇒B(3)ア(ウ)		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
				川の増水などが人々の生活に与える影響や災害から身を守る対策を理解する。	川の増水などが人々の生活に与える影響や災害から身を守る対策について、調べた結果をもとに、自分の考えを表現する。	川による災害について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
1	○ 川と災害 (p. 122～129)	写真などの資料から、川の増水によって起こる土地の変化が人々の生活に大きな影響を与える可能性があることを捉える。 また、災害から身を守るために行われているさまざまな対策について調べる活動を通して、その必要性を捉える。	・さまざまな情報を利用して川による災害とそれらから身を守るための対策について調べる。(考えよう)	○川の増水による災害とその対策について理解する。 B: 川の増水による土地の変化は、生活に大きな影響を与えることがあり、その対策を行う必要があることを理解している。 A: 川の増水による土地の変化は、生活に大きな影響を与えることがあり、その対策を行う必要があることを、自分の暮らしに照らし合わせながら理解している。 【言】【記】 支援: 教科書122～127ページの資料などをもとに、川の増水によって生じる災害や、それに対してどのような取り組みをすればよいかを理解できるようにする。	○川の増水による災害について、自然災害とその対策に関して考察し、その考えを表現する。 B: 川の増水による災害について、自然災害とその対策に関して考察し、その考えを表現している。 A: 川の増水による災害について、過去に起こった土地の変化と具体的に結びつけながら、自然災害とその対策に関して考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 何の自然災害にどのような対策がとられているかを整理し、過去の川の増水の経緯をもとにしたさまざまな防災・減災の取り組みについて考えられるようにする。	○学んだことを、自分の生活にあてはめて考えようとする。 B: 川の増水による災害とその対策について、自分の生活にあてはめて考えようとしている。 A: 川の増水による災害とその対策について、自分の生活にあてはめて考え、これまでに学んだことを具体的に生かそうとしている。 【言】【記】 支援: 教科書の資料などのさまざまな事例を示し、川の増水による災害とその対策をもとに、自分の生活にあてはめられるようにする。

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
7 電流が生み出す力 (p. 130～149) 11月～12月 (11時間)		電磁石の鉄を引き付ける力に着目して、それらを条件を制御して調べる活動を通して、電磁石の性質やはたらきについての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒A(3)ア(ア)(イ)、イ		電磁石の性質やはたらきを理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録する。	電磁石の性質やはたらきについて、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	電磁石の鉄を引き付ける力について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	1. 電磁石の性質 (p. 130～137)	鉄のボルトとエナメル線を使った電磁石を作って、電磁石が鉄を引き付ける様子を見たり、体感したりして、電磁石のはたらきに興味をもち、電流の向きを変えて電磁石の極を調べる実験を通して、電流の向きと電磁石の極に関する予想を確かめることにより、回路に流す電流の向きを変えると電磁石の極が入れ替わることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の電磁石を作って、鉄を引き付ける。(見つけよう) 電磁石の性質を調べる。(実験1) <p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、電流によって電磁石の極が入れ替わるかどうかを確かめ、その結果を適切に記録する。 B:電磁石や方位磁針を正しく使い、電流の向きによって電磁石の極が入れ替わるかどうかを確かめ、その結果を適切に記録している。 A:電磁石や方位磁針を正しく使い、電流の向きによって電磁石の極が入れ替わるかどうかを手際よく効率的に確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:方位磁針の針の色を塗ってあるほうがN極であることと、異極どうしが引き付け合うことをおさえ、電流の向きと電磁石の極との関係を調べられるようにする。</p> <p>○電流の向きを変えると、電磁石は極が入れ替わることを理解する。 B:電流の向きを変えると、電磁石は極が入れ替わることを理解している。 A:電流の向きが変わると、電磁石は極が入れ替わることを、磁石の性質と比べながら理解している。 【言】【記】 支援:実験の結果を再度確認し、電流の向きを変えると方位磁針の針の動きが反対になることから、電流の向きと電磁石の極との関係を理解できるようにする。</p>	<p>○電流の向きと電磁石の極との関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B:電流の向きと電磁石の極との関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A:電流の向きと電磁石の極との関係について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:自分の予想を確かめるためには、何と何を比べればよいかを問いかけ、実験方法を考えられるようにする。</p> <p>○電流の向きと電磁石の極との関係について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B:電流の向きと電磁石の極との関係について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A:電流の向きと電磁石の極との関係について、実験の結果をもとに、磁石の性質と比べながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援:実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○電流の向きと電磁石の極との関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:電流の向きと電磁石の極との関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:電流の向きと電磁石の極との関係に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:磁石には2つの極があったことや、電流を逆向きに流すとモーターの向きが変わったことを想起させ、電流の向きと電磁石の極との関係を具体的に予想させることにより、電磁石の性質について主体的に学習に取り組めるようにする。</p>	

7	<p>2. 電磁石のはたらき (p. 138～143)</p> <p>○ 電磁石の利用 (p. 144～149)</p>	<p>教科書130ページのリフティングマグネットのついたクレーンをもとに問題を見だし、電流の大きさやコイルの巻き数の条件を変えて電磁石が引き付けるクリップの数を調べる実験を通して、電磁石のはたらきを大きくする方法に関する予想を確かめることにより、電流の大きさを大きくしたりコイルの巻き数を増やしたりすれば電磁石のはたらきが大きくなることを捉える。</p> <p>また、学習を振り返り、電磁石の性質やはたらきをものづくりに生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書130ページのような強力な電磁石を見て、気づいたことを話し合う。(見つけよう) 乾電池1個のときと2個のときで電磁石が引き付けるクリップの数を調べる。(実験2-A、電源装置の使い方、電流計の使い方) 100回巻きと200回巻きの電磁石で引き付けるクリップの数を調べる。(実験2-B) 調べた結果の平均を求めて結果を比べる。(学びを広げよう) 学習を振り返り、電磁石を利用した道具を考えて計画書をかき、実際に作る。 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、電磁石のはたらきを大きくする方法を確かめ、その結果を適切に記録する。</p> <p>B:電流計や電磁石を正しく使い、電磁石のはたらきを大きくする方法を確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>A:電流計や電磁石を正しく使い、電磁石のはたらきを大きくする方法を手際よく効率的に確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援:教科書195ページを参考にしながら、電流計を正しく扱って実験ができるように繰り返し指導し、操作を習得できるようにする。</p> <p>○電磁石のはたらきを大きくするには、回路に流す電流の大きさを大きくしたりコイルの巻き数を増やしたりすればよいことを理解する。</p> <p>B:電磁石のはたらきを大きくするには、回路に流す電流の大きさを大きくしたりコイルの巻き数を増やしたりすればよいことを理解している。</p> <p>A:電磁石のはたらきを大きくするには、回路に流す電流の大きさを大きくしたりコイルの巻き数を増やしたりすればよいことを、2つの方法の違いを比較しながら理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:何回か行った実験の結果を見直し、2つの条件について調べた結果をそれぞれ整理することで、電磁石のはたらきを大きくする方法を理解できるようにする。</p>	<p>○電磁石のはたらきを大きくする方法について見出した問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。</p> <p>B:電磁石のはたらきを大きくする方法について見出した問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。</p> <p>A:電磁石のはたらきを大きくする方法について見出した問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:自分の予想を確かめるためには、何と何を比べればよいかを問いかけ、実験方法を考えられるようにする。</p> <p>○電磁石のはたらきを大きくする方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。</p> <p>B:電磁石のはたらきを大きくする方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。</p> <p>A:電磁石のはたらきを大きくする方法について、実験の結果をもとに、測定誤差についても考慮しながら考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:電流の大きさを大きくする方法とコイルの巻き数を増やす方法のそれぞれについて、実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で、自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○電磁石のはたらきを大きくする方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。</p> <p>B:電磁石のはたらきを大きくする方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>A:電磁石のはたらきを大きく方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、電磁石のはたらきを大きくする方法について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>○学んだことを学習の中で扱われた事象にあてはめて考えようとする。</p> <p>B:調べた結果の平均を求めて結果を比べ、電磁石のはたらきを大きくする方法について考えようとしている。</p> <p>A:調べた結果の平均を求めて結果を比べ、グラフを使うよさと平均を求めるよさのそれぞれに言及しながら、電磁石のはたらきを大きくする方法について考えようとする。</p> <p>【言】【記】 支援:平均の求め方を再度確認し、平均を求めて比べた結果から電磁石のはたらきを大きくする方法について考えられるようにする。</p> <p>○学んだことを利用して、電磁石を使ったものづくりをしようとする。</p> <p>B:これまでに学習してきた電磁石の性質やはたらきを利用して、電磁石を使ったものづくりをしようとしている。</p> <p>A:これまでに学習してきた電磁石の性質やはたらきを利用して、安全にも配慮した計画書をしっかりと作ってから、電磁石を使ったものづくりをしようとしている。</p> <p>【行】【作】 支援:これまでの学習を思い出させ、教科書144～147ページの道具の例などをもとに、どのような性質やはたらきを使うとよいかを考えられるようにする。</p>
---	--	--	---	--	--	---

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
8 もののとけ方 (p. 150～173) 1～2月 (15時間)		物が水に溶けることに着目して、物の溶け方を条件を制御して調べる活動を通して、物が水に溶けるときの重さや限度についての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒A(1)ア(ア)、(イ)、(ウ)、イ		物が水に溶けるときの重さや限度を理解するとともに、器具などを正しく扱って実験を行い、その結果を適切に記録する。	物が水に溶けるときの重さや限度について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	物が水に溶けることについて、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5	1. 水よう液の重さ (p. 150～155)	食塩やミョウバンを水に溶かす活動をもとに問題を見だし、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さを調べる実験を通して、食塩やミョウバンが水に溶けるときの重さに関する予想を確かめることにより、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で重さが変わらないことを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 食塩やミョウバンを水に溶かす。(見つけよう、理科室の使い方) 食塩やミョウバンを水に溶かす前と溶かしたあとで、全体の重さの変化を調べる。(実験1、電子てんびんの使い方、上皿てんびんの使い方) 	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さを確かめ、その結果を適切に記録する。 B: 蓋つき容器や電子天秤を正しく使い、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さを確かめ、その結果を適切に記録している。 A: 蓋つき容器や電子天秤を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さを確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 教科書153ページをもとに、電子天秤を正しく扱えるように繰り返し指導し、操作を習得できるようにする。 ○食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さは変わらないことや、溶けている物の均一性を理解する。 B: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さは変わらないことや、溶けている物の均一性を理解している。 A: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さは変わらないことや、溶けている物の均一性を、複数の実験の結果をもとに理解している。 【言】【記】 支援: 実験の結果を再確認し、食塩やミョウバンを水に溶かす前後で全体の重さを比べさせることにより、食塩やミョウバンを水に溶かしたときの重さについて理解できるようにする。	○食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。 A: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 問題に対する予想の根拠をはっきりさせてから、実験方法を考えていくようにする。 ○食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の全体の重さについて、実験の結果をもとに、溶けた食塩やミョウバンの実在性に言及しながら考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 食塩やミョウバンを溶かす前後の重さを振り返らせ、どの班も重さの変化がないことから、溶けた食塩やミョウバンが全て水溶液の中にあると考えられるようにする。	○食塩やミョウバンを水に溶かす前後の重さに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の重さに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 食塩やミョウバンを水に溶かす前後の重さに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: 家庭科での経験や「見つけよう」の活動を振り返らせたり、食塩やミョウバンを水に溶かす前後の重さについて他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。
		食塩やミョウバンを決まった量ずつ水に入れて調べる実験を通して、食塩やミョウバンの水に溶ける限度に関する予想を確かめることにより、食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度があることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 実験1の結果を振り返って、食塩やミョウバンが水に溶ける量について話し合う。(見つけよう) 水の量や一度に溶かす食塩やミョウバンの量を決めて食塩やミョウバンが水に溶ける限度があるかどうかを調べる。(実験2、メスシリンダーの使い方) 	○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を確かめ、その結果を適切に記録する。 B: メスシリンダーを正しく使い、食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を確かめ、その結果を適切に記録している。 A: メスシリンダーを正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を確かめ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援: 教科書197ページをもとに、メスシリンダーを正しく扱えるように繰り返し指導し、操作を習得できるようにする。 ○食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度があることを理解する。 B: 食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度があることを理解している。 A: 食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度があることを、表などに整理した具体的な結果をもとに理解している。 【言】【記】 支援: 食塩やミョウバンを小さじ1杯ずつ水に入れて調べた結果、一定量以上に食塩やミョウバンを入れると溶け残りが出ることから、食塩やミョウバンが水に溶ける量には限度があることを理解できるようにする。	○食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。 B: 食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について見いだした問題に対して、自分の予想を考え、表現している。 A: 食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について見いだした問題に対して、自分の予想を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援: 実験1では調べた結果が班ごとに違っていたことに着目させ、食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を調べるとき、何に気をつける必要があるかを考えられるようにする。 ○食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。 B: 食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。 A: 食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度について、実験の結果をもとに複数の結果から考察し、その考えを表現している。 【言】【記】 支援: 実験の結果を振り返らせ、その結果から自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。	○食塩やミョウバンが水に溶ける限度に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B: 食塩やミョウバンが水に溶ける限度に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A: 食塩やミョウバンが水に溶ける限度に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援: どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、食塩やミョウバンが水に溶ける限度について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。

6	2. ものが水にとける量 (p. 156～163)	水の量や温度の条件を変えて食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる実験を通して、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法に関する予想を確かめることにより、食塩は水の量を増やせばたくさん溶けるが水の温度を上げて溶ける量がほとんど変わらないが、ミョウバンは水の量を増やしたり水の温度を上げたりすればたくさん溶けることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 水の量が50mLと100mLのときで食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる。(実験3-A) 水の温度を上げないときと上げるときで食塩やミョウバンが水に溶ける量を調べる。(実験3-B) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法を確かめ、その結果を適切に記録する。</p> <p>B:メスシリンダーを正しく使い、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法を確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>A:メスシリンダーを正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法を確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援:教科書197ページをもとに、メスシリンダーを正しく扱えるように繰り返し指導し、操作を習得できるようにする。</p> <p>○食塩やミョウバンを水にたくさん溶かすには水の量を増やせばよく、水の温度を上げると、ミョウバンは水にたくさん溶かすことができるが食塩は水に溶ける量はほとんど変わらないことを理解する。</p> <p>B:食塩やミョウバンを水にたくさん溶かすには水の量を増やせばよく、水の温度を上げると、ミョウバンは水にたくさん溶かすことができるが食塩は水に溶ける量はほとんど変わらないことを理解している。</p> <p>A:食塩やミョウバンを水にたくさん溶かすには水の量を増やせばよく、水の温度を上げると、ミョウバンは水にたくさん溶かすことができるが食塩は水に溶ける量はほとんど変わらないことを表などに整理した具体的な結果をもとに理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:2つの条件について調べた結果をそれぞれ整理させ、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法を理解できるようにする。</p>	<p>○食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。</p> <p>B:食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について見いだした問題に対して、自分の予想を考え、表現している。</p> <p>A:食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について見いだした問題に対して、自分の予想を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:調べる条件が2つ以上あるときは、どのように調べる必要があるかを問いかけ、条件を制御した実験を計画できるようにする。</p> <p>○食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。</p> <p>B:食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。</p> <p>A:食塩やミョウバンが水に溶ける量の限度を増やす方法について、実験の結果をもとに複数の結果から考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:水の量を増やす方法と水の温度を上げる方法のそれぞれについて、実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○食塩やミョウバンが水に溶ける限度を増やす方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。</p> <p>B:食塩やミョウバンが水に溶ける限度を増やす方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>A:食塩やミョウバンが水に溶ける限度を増やす方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、食塩やミョウバンが水に溶ける限度を増やす方法について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>
4	3. とけているものが出てくるとき (p. 164～173)	実験3-Bのあとミョウバンの溶け残りが増えていることから問題を見だし、温度や水の量を変えて食塩やミョウバンの粒の出方を調べる実験を通して、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法に関する予想を確かめることにより、水溶液に溶けている食塩は水溶液から水の量を減らすことで出てくることを捉え、ミョウバンは水溶液の温度を下げたり水溶液から水の量を減らしたりすれば出てくることを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書164ページの写真のような現象がどうして見られるのかを話し合う。(見つけよう) ミョウバンの水溶液を冷やして、溶けているものが出てくるかどうかを調べる。(実験4-A、ろ過の仕方) 水溶液から水を蒸発させて、溶けているものが出てくるかどうかを調べる。(実験4-B、実験用ガスコンロの使い方、アルコールランプの使い方) 	<p>○目的に応じて選択した器具を正しく扱いながら、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法を確かめ、その結果を適切に記録する。</p> <p>B:ろうとやろ紙を正しく使い、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法を確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>A:ろうとやろ紙を正しく使い、目的に沿った的確かつ円滑な操作により、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法を確かめ、その結果を適切に記録している。</p> <p>【行】【記】 支援:教科書197ページをもとに、ろ過を正しく行えるように繰り返し指導し、操作を習得できるようにする。</p> <p>○水溶液に溶けているミョウバンは、水溶液の温度を下げれば出てくることを理解する。</p> <p>B:水溶液に溶けているミョウバンは、水溶液の温度を下げれば出てくることを理解している。</p> <p>A:水溶液に溶けているミョウバンは、水溶液の温度を下げれば出てくることを、ミョウバンを水にたくさん溶かす方法と的確に関連づけながら理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:実験の方法や結果をそれぞれ整理して、水溶液に溶けているミョウバンを取り出す方法を理解できるようにする。</p> <p>○水溶液に溶けている食塩やミョウバンは、水溶液の水の量を減らせば出てくることを理解する。</p> <p>B:水溶液に溶けている食塩やミョウバンは、水溶液の水の量を減らせば出てくることを理解している。</p> <p>A:水溶液に溶けている食塩やミョウバンは、水溶液の水の量を減らせば出てくることを、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法と的確に関連づけながら理解している。</p> <p>【言】【記】 支援:実験の方法や結果をそれぞれ整理して、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法を理解できるようにする。</p>	<p>○水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現する。</p> <p>B:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、表現している。</p> <p>A:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について見いだした問題に対して、自分の予想を確かめる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:実験3-A、3-Bではどうすれば食塩やミョウバンが水にたくさん溶けたかを想起させ、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について考えられるようにする。</p> <p>○水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現する。</p> <p>B:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について、実験の結果をもとに考察し、その考えを表現している。</p> <p>A:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について、実験の結果をもとに、食塩やミョウバンを水にたくさん溶かす方法と的確に関連づけながら考察し、その考えを表現している。</p> <p>【言】【記】 支援:水溶液の温度を下げる方法と水の量を減らす方法のそれぞれについて、実験の結果を、結果の見通しと比べ、両者の一致・不一致で自分の予想が確かめられたかどうかを判断させるようにする。</p>	<p>○水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。</p> <p>B:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>A:水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法に興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。</p> <p>【行】【言】 支援:水の量を増やすと食塩やミョウバンは水にたくさん溶けることと、水の温度を上げるとミョウバンは水にたくさん溶けることを振り返らせ、水溶液に溶けている食塩やミョウバンを取り出す方法について他者との意見交換を促すことにより、主体的に学習に取り組めるようにする。</p>

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
9 人のたんじょう (p. 176~189) 2~3月 (6時間)		人の誕生に着目して、それらをさまざまな方法で調べる活動を通して、人の受精卵の成長についての理解や実験に関する技能を身につけ、予想や仮説をもとに解決の方法を発想して表現する。 ⇒B(2)ア(イ)、イ		人の受精卵の成長を理解するとともに、目的に応じて情報を収集して、その結果を適切に記録する。	人の受精卵の成長について、予想や仮説をもとに、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。	人の誕生について、すすんで関わりながら問題解決しようとするとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
6	○ 人のたんじょう (p. 176~189)	人の受精卵と子が生まれる頃を比べて不思議に思ったことを話し合う活動をもとに問題を見だし、人の受精卵が母親の体内で育つ様子を調べる活動を通して、人の受精卵の成長に関する予想を確かめることにより、人の受精卵は母親の体内で約38週かけてだんだんと育つことや、胎盤を通した養分や不要な物のやりとりを捉える。	<ul style="list-style-type: none"> 人の卵が受精した頃と子が生まれる頃を比べて不思議に思ったことを話し合う。(見つけよう) 人の受精卵が母親の体内で育つ様子を調べる。(資料調べ1) 	○目的に応じて選択した資料を活用しながら、人の受精卵の育ちを調べ、その結果を適切に記録する。 B:本やDVD、コンピュータなどを利用したり、地域の人材を活用したりして、人の受精卵の育ちを調べ、その結果を適切に記録している。 A:本やDVD、コンピュータなどを利用したり、地域の人材を活用したりして、情報を適切に取捨選択しながら人の受精卵の育ちを調べ、その結果を適切に記録している。 【行】【記】 支援:調べたいことに応じて、本やDVD、コンピュータなどの資料選択の仕方や情報活用の仕方を指導する。	○人の受精卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を調べる方法を考え、表現する。 B:人の受精卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を調べる方法を考え、その考えを表現している。 A:人の受精卵の育ちについて見いだした問題に対して、自分の予想を調べる方法を考え、その考えを他者に伝わりやすいように工夫して表現している。 【言】【記】 支援:自分の予想を確かめるためには、どのような方法で何を調べていけばよいかを問いかけ、調べる方法や内容を考えられるようにする。	○人の受精卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとする。 B:人の受精卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、すすんで問題を解決しようとしている。 A:人の受精卵の育ちに興味をもち、粘り強く他者と関わりながら、これまでの学習や自分の経験を生かしてすすんで問題を解決しようとしている。 【行】【言】 支援:どのような問題について解決しようとしているのかを振り返らせたり、人の受精卵の育ちや母親の体内での成長について他者との意見交換を促したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。

単 元		総 括 目 標		評 価 規 準 (具 体 的 目 標)		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 受けつがれる生命 (p. 190~191) 3月 (2時間)		メダカやアサガオ、人の受け継がれる生命に着目し、生命の連続性についての理解を身につける。 ⇒B(1)ア(エ)、B(2)ア(ア)(イ)		生命の連続性について理解する。		メダカやアサガオ、人の受け継がれる生命について、すすんで関わりながら学ぼうとする。
時数	次	ねらい	学習活動	評 価 基 準 の 例		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2	○ 受けつがれる生命 (p. 190~191)	これまでの学習を振り返り、植物や動物における生命の連続性を捉える。	・動植物についての学習を振り返って生命の連続性についてまとめる。	○植物や動物が生命を受け継いでいることを理解する。 B:植物や動物が生命を受け継いでいることを理解している。 A:植物や動物が生命を受け継いでいることを、アサガオ、メダカ、人の共通点と差異点に着目しながら理解している。 【言】【記】 支援:これまでの植物や動物についての学習を1つ1つ振り返らせ、それぞれの生き物が次の世代へと生命を受け継いでいることを確認し、生命の連続性を理解できるようにする。		○学んだことを、さまざまな植物や動物にあてはめて考えようとする。 B:生き物が生命を受け継いでいることについて、さまざまな植物や動物にあてはめて考えようとしている。 A:生き物が生命を受け継いでいることについて、さまざまな植物や動物にあてはめて考え、生き物の共通性や多様性を説明しようとしている。 【言】【記】 支援:これまでの学習を思い出させ、アサガオもメダカも人も次の世代へと生命をつなげていることから、他の生き物について考えられるようにする。